

高木復興大臣茨城県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成28年3月4日(土) 16:24～16:29於) 潮来市日の出地区)

1. 発言要旨

本日は茨城県、茨城県水戸市、大洗町、鹿嶋市、潮来市を訪問いたしましたし、それぞれの自治体を視察するとともに、橋本茨城県知事と意見交換を行わせていただきました。

橋本茨城県知事との意見交換では、震災から5年がたって、着実に復旧・復興が進んでいるが、まだ液状化対策、人口減少、あるいは風評対策など課題が残っている。引き続き財政支援などをしっかりお願いしたいという話がありました。

また、復興五輪である2020年の東京五輪に向けて、競技や、あるいはキャンプ地の誘致などでも、被災地茨城の応援をお願いしたいという話がありました。

そういった話があって、私からは本日改めて、茨城の被害の大きさを実感できた。来年度からの復興・創生期間、6.5兆円をしっかりと確保したので、安心して復興に取り組んでもらいたいという話。また、時間がかかっている液状化対策も、最後まで復興支援するとともに、正しい情報発信などで風評対策にも取り組んでいきたいという話をさせていただきました。

また、水戸市、大洗町、鹿嶋市、潮来市の視察では、水戸の偕楽園や弘道館の復旧状況や、あるいは歴史景観まちづくりの進捗状況。大洗では、水産業共同利用施設の復興状況。鹿嶋と潮来では、鹿島神宮駅西側地区、そして、ここ日の出地区の液状化対策事業を拝見させていただきました。

水戸のまちが魅力を取り戻すだけでなく、更にまちの魅力を高めていること。あるいは、大洗では水産業を6次産業化し、活気のある漁業のまちをつくっていること。鹿嶋と潮来では、工法の調整、あるいは新しい技術の導入など、難しい点もありましたけれども、着々とした事業を進められていること。そうしたことを感じさせていただきました。

今後とも、被災地にしっかりと寄り添いながら、現場主義に徹したきめ細かな対応を行い、一日も早い被災地の復興に向け全力で取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今回、潮来の方、日の出地区を御覧になられたと思うんですけれども、御覧になられた率直な御感想を。

(答) 家屋はそれぞれしっかりと直されていますけれども、まだ塀だとか、ガレージだとか、その当時のままで、もちろん資料としても写真を拝見させていただきましたけれども、当時の液状化の状態が大変過酷なものだったということがよく分かりました。

その中において、いろいろ工法なども工夫しながら、新しい技術でもありますので御苦勞は多かったと思いますけれども、市長さんも初め、地元の皆様方の御理解をいただいて、しっかりと事業を進めていただいて、もう完成まで間近と、いよいよ来月にも地下水位の低下を行おうかという段階に来たということで、心から地元の皆さんに敬意を表したいと思えますし、まだ課題もあろうかというふうに思っていますので、そうした課題にも引き続き取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

(問) その課題の一つに、この3月で工事が一度終わりになって、その後、水を実際に抜いて、検証するという作業に入っていくと思うんですけれども、その検証作業の後に、住宅が傾いたり、何かそういう不具合が出た場合の補償というのが、ちょっと曖昧になっているという問題があるんですけれども、そういったところには。

(答) もちろん十分、検討、研究をしてやっただいていいる工事でありますから、決してそういうことはないだろうというふうに思います。

ただ、モニタリング等については、事業の一環ですから、交付金でという話かと思えますけれども、その後のことについては、日本の公共事業のあり方等にも関わってくるような話で、事業主体でというような思いは、今は持っているところでございます。

(問) 事業主体とは。

(答) ですから、国としてはなかなかそういったところに助成をするということとは、その段階になると少し難しいのではないかなと。まあ、今は検討中ではありますけれども。もちろん、市長さんからそういう御要望もいただいておりますので、検討もさせていただきますけれども、現状、そういう状況かなというふうに思います。

(問) では現状はちょっと難しいと。

(答) そう、今の段階ではなかなか、いい返事ができなくて申し訳ないなと思っています。

(以 上)